

横浜・本牧地域における新たな公共交通の確保に向けた動き

小田部明人

横浜の公共交通活性化をめざす会
NPO 法人横浜にLRTを走らせる会
a.kotabe@k8.dion.ne.jp

はじめに

横浜市中区の南東部に位置する本牧地域（人口約4.7万人）は、都心部である関内、元町にも比較的近いものの、地域の公共交通は路線バスのみであり、近年のバス路線減便等もあり、地域に住む方々は、今後の移動手段の確保について不安な思いを抱いている人も多いとのこと。そのような中、地元の人々が中心となって、今後の公共交通のあり方を考える動きが出てきている。

1. 戦後からバブル期の本牧

戦後の一時期、この地域の一部は米軍に接収され、基地の関連施設や軍人の住宅地が多く建てられ、地域を貫く本牧通の沿道には、軍人やその家族向けの建物や商店が連なっていた。当時を知る人によると、この地域一帯は日本国内とは思えない独特な雰囲気が漂っていたようで、一時期は本牧と言えば最先端のファッションや音楽に触れられると注目されていたこともあり、この本牧をベースとした様々なミュージシャンが生まれ育ったとのことである。

またバブル期は商業・飲食施設が集まる「マイカル本牧」には、最先端の雰囲気が味わえると東京からも多くの人々が車でやって来て楽しんでいたようで、当時からこの地域一帯はクルマ中心の社会であった。

2. 本牧地域の現状

「マイカル本牧」が撤退した後に「イオン本牧」が開店し営業を行っているが、以前と比べると売り場面積は縮小している。また本牧通の向かいにあった商業施設「ベイタウン本牧5番街」は昨年末に閉店したが、来年春に所有者が変わりリニューアルオープンされるとの話もある。

一方で、地域一帯には新たなマンションが多数建っており、若い子育て世代も数多く移り住んできており、人々の動きは止まっておらず、地域全体の人口は微増している。このため、公共交通の充実化に向けた期待は高まっている。

本牧通の特徴として一部の区間では、通りの歩道側に時間帯（11:00～15:00）によって駐車可のレーンが設定されており、沿道の商店の意向を反映させたとのこと決定の経緯が興味深い。



（「イオン本牧」付近の本牧通）

3. 交通に関する課題

一時期この地域には地下鉄を建設する話があり、運輸政策審議会の答申にも記されている。横浜市ではこれを受け一時期導入を検討したが、一部地域での反対（駅をどこに設置するか等の声がまとまらず）や財源確保の問題で中断したままとなり見通しは立っていない。かつて本牧通には複数系統の横浜市電が走っており、横浜都心部と結ばれていたが、1970年に廃止となり、これ以降は鉄道空白地となっている。このためこの地域の公共交通は路線バスが担ってきたが、近年のバス運転士不足の影響を受け、減便が発生しており、朝の通勤時間帯には乗り切れない事例が発生している。

昨年度、NPO「横浜にLRTを走らせる会」では、地元の方々を対象に交通に関するアンケート調査を実施したが、バスの減便や定時性の確保に関する不安の声が多数寄せられた。

また本牧には、横浜の主要な観光スポットの一つである三溪園があり、ここは実業家で茶人もあった原三溪によって造られた日本庭園であるが、このアクセスがバスに限られているのが残念である。



（本牧通を走る市電 写真提供：「しでんの学校」竹中洋一氏）

4. 地域住民の動き

最近の話として、バス路線の減便をきっかけとし、本牧地域の住民による新たな動きが出てきており、当該地域の交通に関する課題を整理し、出来ることならLRTを走らせて地域の活性化に繋げようとの話になっている。市電が廃止されて55年が経過したが、当時の様子を知っている方も存在しており貴重な情報源でもある。

鉄道空白地である本牧地域に、LRT導入の話が具体化する方向に進めば、その影響は地域に限らず、全国的にも大きな力になり得るものであり、今後の活動に期待したい。

おわりに

地域の人々の公共交通の確保に向けた新たな活動、組織化を図る動きについて、今までの私自身の活動を踏まえ、LRTやバス交通に関する情報提供や行政への働きかけ等で出来る限りの応援をしていきたいと考えている。